

第3回 鞍手町役場新庁舎等建設に関する住民説明会 概要

- 1 開催日 令和3年4月25日（日）
- 2 開催時間 開会 午前10時30分
閉会 午後 0時20分
- 3 開催場所 総合福祉センター 多目的ホール
- 4 参加者 40人

5 次 第

1) 開会

- ・司会より開会

2) 町長あいさつ

- ・町長よりあいさつ

3) これまでの経過について

- ・事務局からこれまでの経過について説明

4) 設計コンセプト

5) 設計概要

- ・事務局（設計者）から設計コンセプト及び設計概要について説明

6) 概算事業費

7) 今後のスケジュール

- ・事務局から概算事業費及び今後のスケジュールについて説明

8) 質疑応答、意見交換

- ・回答のうち、特段の記載がないものは町長が回答

質問者①

- ・町長が辞任すれば事業は停止できる。財政的な面から支援者も反対している。

質問者②

- ・建設予定地の選定理由を知りたい。大雨で浸水しないか、活断層や坑道などは無いか。
- ・建築に携わった経験から、建物は安全性が肝要と考える。震度8や60m/秒の風に耐えるか。窓が多いので、風や火災に弱いのでは。
- ・交付金の対象となる時期に建設するのは賛成だが、返済計画が気になり。

①への回答

- ・辞任では職責を果たしたとは言えず、次回の選挙で審判を仰ぎたい。

②への回答

- ・(事務局) 新庁舎の建設地は、当初の計画策定の際、庁舎等建設検討委員会で候補地選定のうえ決定した。主要施設を集約できる点が大きかったが、大雨の影響についても問題ないと判断されたもの。
- ・(設計者) ハザードマップにおける浸水想定地域ではなく、ボーリング調査の結果により坑道や活断層の問題はないものと考えており、構造体Ⅰ類として大地震や風等も考慮して設計している。
- ・(事務局) 令和元年度に鞍手町一般会計から償還した約9億4千万円のうち、交付税による補填分を減じた約3億円が町の純負担。この純負担分は今後5年間で約1億円まで減少し、令和10年度には概ね完済する。なお、新庁舎建設により、計算上は1年当たり約1億3千万円の償還(利息込)となるが、交付税の補填等を加味すると年間8千万円程度になると見込んでいる。

質問者②-2

- ・建築物の欠陥は、雨漏りによるものが多く、太陽光発電機器の設置で屋根から雨漏りしやすくなるのではないかと懸念している。一時期は都市部を中心に屋上に受水槽等を設置することが多かったが、耐震性や雨漏りへの懸念から、現在は減少したと聞く。
- ・(構造等に) 問題ないと言うが、資料に具体的な記載がない。震度〇、風速〇m/秒まで耐えるなどを明記してほしい。

②-2への回答

- ・(設計者) 専門的な指摘や助言をいただき、今後の参考とさせていただきたい。今回の住民説明会用の資料には安全性等の記載は困難であったが、構造計画の概要については、基本設計説明書に記載している。

質問者③

- ・来場しなかった住民にも資料を配付してほしい。
- ・住民説明会を増やす等して200~300人は住民が出席するようにしてほしい。
- ・町道は新しく病院から鞍心館まで通る予定か。
- ・3階建てでは町全体を見渡すことはできないのでは。
- ・駐車場は足りるか。
- ・今の議場は狭く傍聴人数が絞られるが、新庁舎ではどうか。

③への回答

- ・(事務局) 開催場所や回数の検討はしたが、新型コロナウイルス感染症対策のため回数を増やすのは困難と判断した。また、密を避けるため、会場には広さが必要。
- ・(事務局) 新庁舎の議場傍聴席は、これまでの議員後方からではなく横から見る位置にあり全体を見渡しやすい。傍聴人数が超過した場合の対応としてロビー等に映像を流す仕組みを検討中。
- ・(事務局) 庁舎を3階建てにしたのは、2階建てより駐車場を確保できるため。
- ・(事務局) 町道は病院から鞍心館側へ抜ける。産業道路の渋滞緩和に繋がる見込み。
- ・(事務局) 資料は頁数が多く全戸配布は難しい。周知方法については検討したい。なお、

ホームページ等には本資料を掲載する予定。

質問者④

- ・消費税増や建築単価の値上がり等により当初計画から1割程度の上昇は想定していたが、36億から53億円は予想以上。人口減少の中、住民サービス低下等の影響がないか心配。庁舎に行くのは年に数回程度で、立派な庁舎は不要。病院なら生命に関わるので高額になるのも仕方ないと思えるが、庁舎では受け入れにくい。

④への回答

- ・石炭資料館が建築基準法上の理由により移設が必要となったことや、それに伴う造成等の区域が拡大するなどで費用が増加した。また、事業費には福祉センター機能の集約や中央公民館の大規模改修、プールの解体や周辺道路の拡幅なども含んでいる。新庁舎の建設により、ワンストップや住民利用向上のための機能拡充が可能となり住民サービスは向上する。平成29年8月の住民アンケートでは、8割が諸手続きのために来庁し、また4人に1人は庁舎をほとんど利用しないとの回答だったが、これからの役場は、住民相談等の機能を求められることになると考える。役場をより身近に感じることで、相談しやすい環境を整えることが大切だと考えている。

質問者⑤

- ・小竹町や宮若市等の近隣自治体と比較すると、人口比を考慮しても事業費が高い。子孫に借金を残すことになり、例えば合併を断られる等、鞍手町の消滅に繋がってしまうのでは。
- ・広いエントランスは中央公民館を使用すればよく不要である。人口が減少していく中、庁舎はもっとコンパクトでいい。

⑤への回答

- ・53億円は周辺整備を含めた総事業費であり、庁舎の建築費に限定すると約24億円。近隣と比較しても決して華美ではないと考えている。
- ・エントランスは住民が利用するためのスペース。他の自治体ではエントランスを町や住民活動のアピールの場として住民がうまく活用している。住民と役場の距離を縮めるためにも必要だと考える。

質問者⑥

- ・この説明会での意見は反映されるのか。変更の余地のない報告会のような位置付けか。
- ・国の方針は住民の来庁を減らす流れにあり、窓口はそれほど必要ないのでは。
- ・くらで病院の負担金の返済は町が行っているのか。ここ5年程は町の黒字幅が減少しているように見えるが、住民サービスの低下に繋がらないか。
- ・PTA役員に就いていたので、教育環境への影響がないか不安を覚える。以前、町長は教育への投資を重要項目と捉えていたと言っていたが、庁舎建設のために教育に必要な予算がつかなくなるのではないか。

⑥への回答

- ・基本設計の内容について住民周知が必要と考え説明会を開催した。基本設計が完了しており、軽微な変更は可能だが、大きな変更は困難。
- ・住民の来庁を減らす取り組みは、庁舎移転を契機としたい。待ち時間なども考慮する必要

がある。

- ・くらはて病院の負担金については国から交付税が出ている。病院では起債できないので町が代わりに起債している状態。ご指摘のとおり収支ほどの自治体も厳しい。財政調整基金を取り崩す自治体も多いが、鞍手町もそうならないよう努力する。
- ・教育環境についての具体的な要望は、町に届きにくい面がある。今年度は教育に限らず、どの部署にも厳しい予算となっている。

質問者⑥-2

- ・給食センターなど、必要な他の投資に影響はないか。

⑥-2への回答

- ・給食センターは少しずつ改修しながら運用している。小学校の在り方と併せて検討したい。

質問者⑦

- ・新庁舎は近隣の市町村と比較して身の丈に合っていないように見える。
- ・総合福祉センターは残すのか。
- ・庁舎からそれほど温室効果ガスは排出されないと考えるが、省エネ設備に3.5億円もかけるのか。
- ・大谷自然公園は、浄化槽が故障したために使用できない。庁舎にこれほどかけるなら浄化槽を修繕してほしい。

⑦への回答

- ・庁舎の建築費に限定すると約24億円で、近隣と比較しても決して華美ではないと考えている。
- ・福祉センターは残し住民が利用できるようにしたい。今後、具体的に検討していく。
- ・環境面は、衆議院で温暖化対策推進法の改正を協議中であり、改正により中核市以上には様々な義務が生じる見込み。町に対しては努力義務になると思うが、国が2030年までに温室効果ガスの排出量を46%減と目標を掲げる以上、町でも何らかの対応を要する。
- ・大谷公園の取り扱いは協議中。

9) 閉会

- ・司会より閉会